

資料1

施設整備方針について

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

■調査の目的

新総合体育館の施設整備方針については、昨年度実施した市民及び関係団体に対するアンケート調査結果を基に検討を進めています。アリーナの仕様等について詳細な検討を進めるに当たって、昨年度の調査を補足するために、現総合体育館を利用する主要な団体に対して、ヒアリング調査を実施しました。

■調査概要

- 調査対象：①小樽スポーツ協会加盟団体のうち室内利用（体育館・プール）が想定される団体（17団体）
②市内障がい者団体（5団体）
③小樽市中学校体育連盟・高等学校体育連盟小樽支部

調査方法：メール・郵送・電話

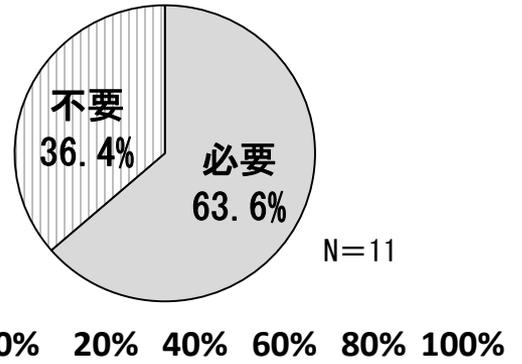
調査期間：令和5年6月22日（木）～7月上旬

回答数：16件（回答率：67%）

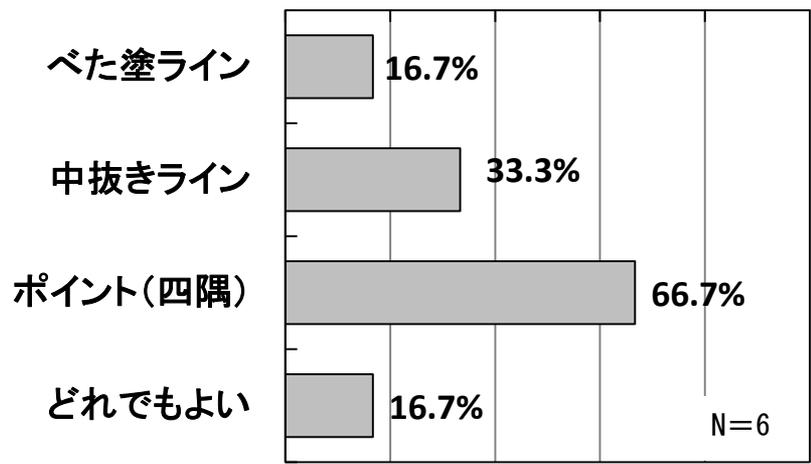
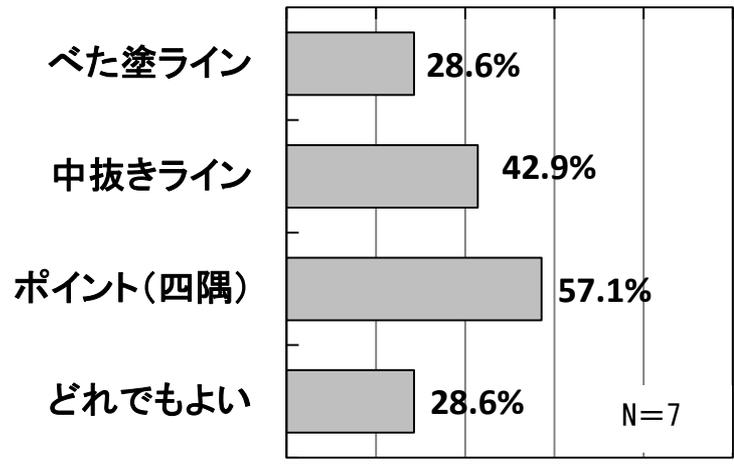
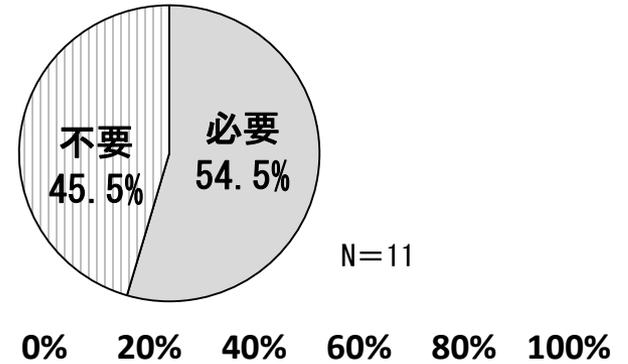
1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問A. メインアリーナのコートラインの必要性について

【メインアリーナ・公式】



【メインアリーナ・非公式】

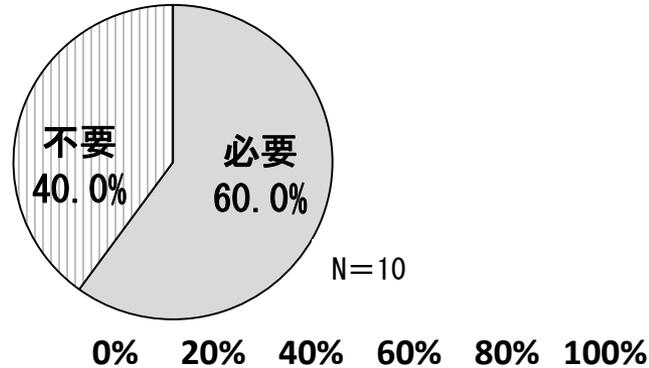


- 公式のコートについては約6割の団体がコートラインが必要と回答している。
- 線種については、「ポイント（四隅）」の希望が多い。

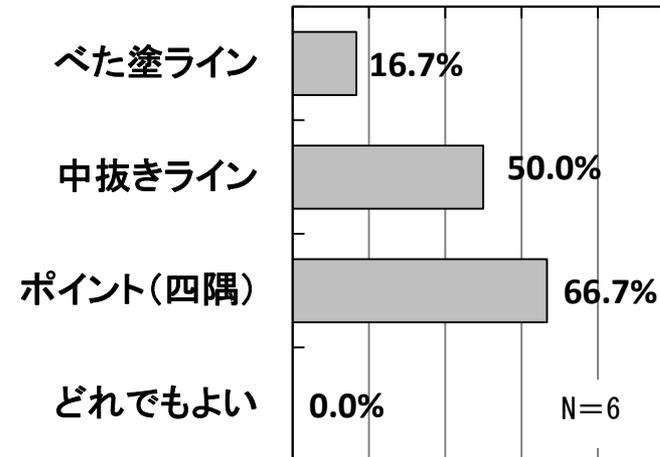
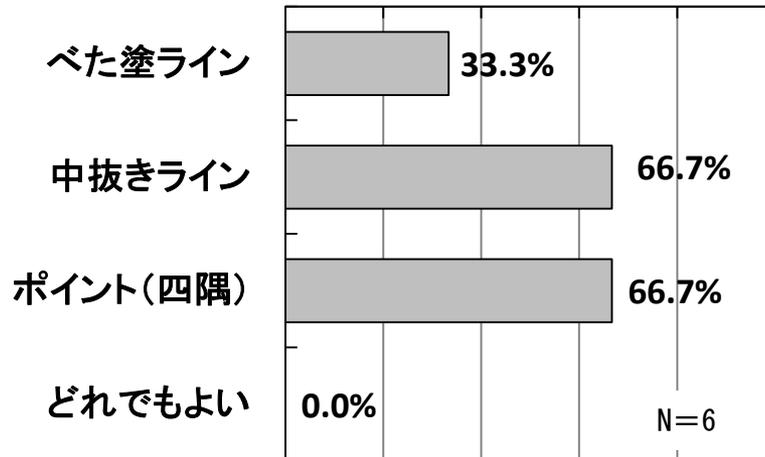
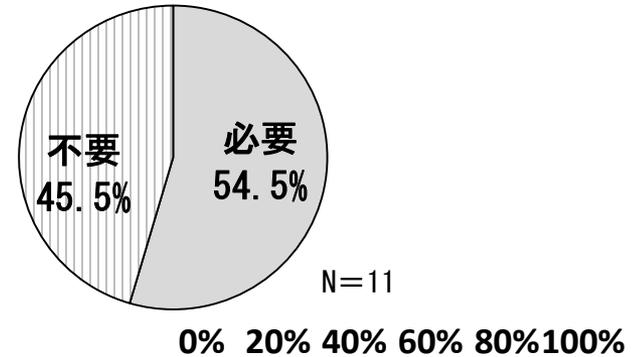
1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問B. サブアリーナのコートラインの必要性について

【サブアリーナ・公式】



【サブアリーナ・非公式】



- 公式のコートについては約6割の団体がコートラインが必要と回答している。
- 線種については、「中抜きライン」、「ポイント(四隅)」の希望が多い。

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問C. 有効天井高について

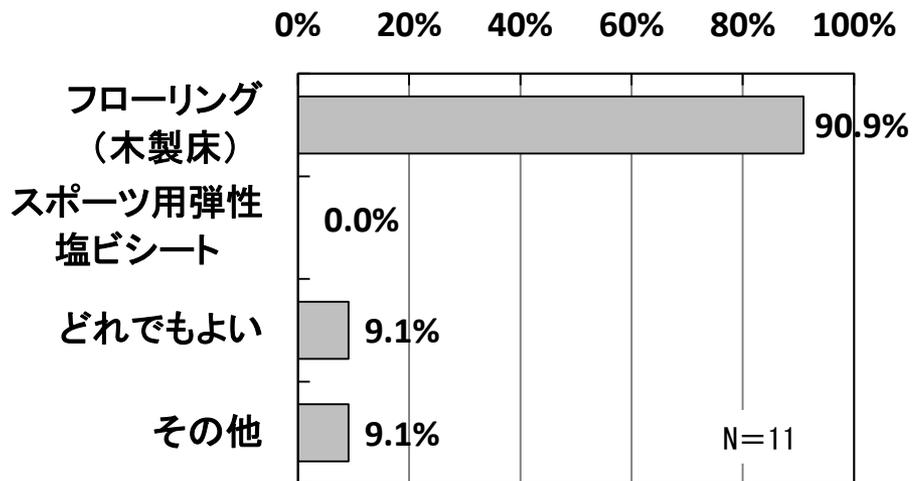
メインアリーナ	サブアリーナ	多目的室	格技室	団体名
12.5m	7m			小樽体操連盟
12m	12m			小樽地区バドミントン協会
5m	5m			小樽卓球連盟
10m	10m			小樽テニス協会
12m	7m			小樽バレーボール協会

- メインアリーナ・サブアリーナについて、最も高い有効天井高の回答は、メインアリーナ12.5m、サブアリーナ12mとなっている。

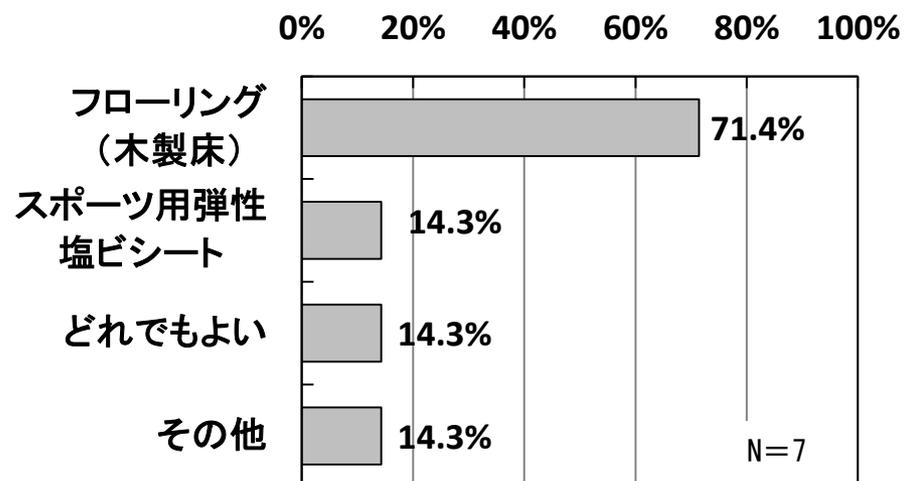
1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問D. 床材について

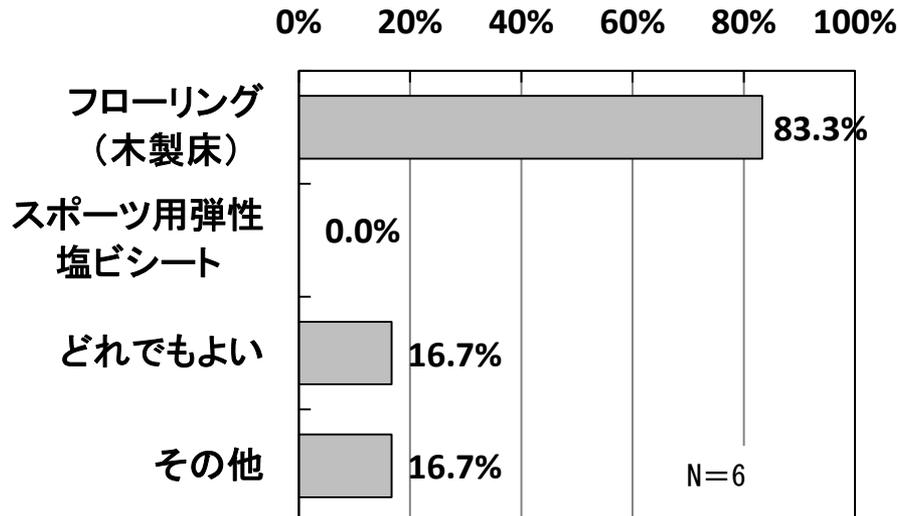
【メインアリーナ・サブアリーナ】



【多目的室】



【格技室】

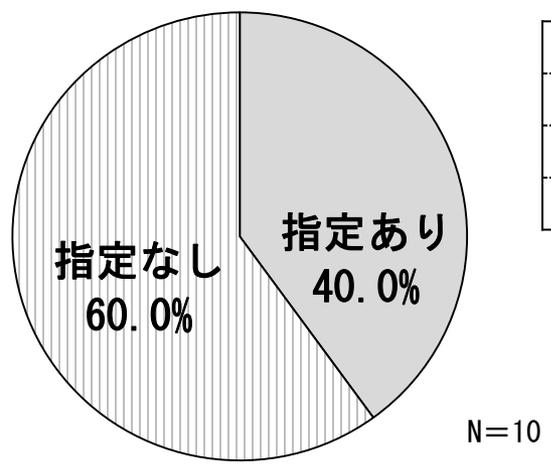


- いずれの諸室も「フローリング (木製床)」の希望が最も多い。

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問E. 照度について

【照度の指定】



1	300ルクス以上	小樽体操連盟
2	1,000ルクス以上	小樽卓球連盟
3	1,000ルクス以上	小樽バレーボール協会
4	1,000ルクス以上	小樽バスケットボール協会

● 4団体より具体的な照度の指定があった（最高で1,000ルクス以上）。

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問F. 大会・競技会開催時の動線等で配慮すべき事項について

●アリーナについて	団体名
メインアリーナに関しては、観客等の動線と選手・スタッフの動線を別にとることで、スムーズな大会等の運営と、事故やトラブルの回避につながられる。	小樽市中体連
剣道の審判の空き時間に食事が速やかにできるような距離が望ましい。審判監督会議を行い、速やかに大会会場へ移動できる動線が望ましい。	小樽剣道連盟
選手・スタッフと観客の動線を分離していた方が管理しやすい。	小樽バレーボール協会
●プール室について	団体名
最低限、選手と観客の動線を分ける必要があると考える。また、基本構想で示されていたように、メインアリーナとプールは極力離れるようにして、間に多目的室・会議室等で隔てることで使い勝手やプライバシーに配慮できれば良い。	小樽市中体連
プールを大会で使用する場合、使用する備品の器具庫がプールの近くでないと運搬が大変である。	小樽水泳協会

- 観客と選手・スタッフ動線の分離についての意見が複数挙げられた。

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問G. 大会・競技会開催時、搬出入に使用する車両について

搬入車両		団体名
2tトラック	4台	小樽体操連盟
2tトラック	1台	小樽ボールルームダンス連盟
※開催種目や大会規模によって異なる		小樽市中体連
2tトラック	2台	小樽剣道連盟
4tトラック	2台	小樽地区バスケットボール協会
2tトラック	1台	小樽市ラグビーフットボール協会

- 搬入車両は2～4tトラックで、最大4台分の搬入が想定される。

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問H. ユニバーサルデザイン・プライバシー等への配慮について

	団体名
今後、高齢化が益々進むことを考えると、可能な限りのユニバーサルデザインは重要だと考える。	小樽市中体連
また、LGBT等を踏まえると、更衣室やトイレの工夫も必要と考える。	
障がい者の方や幼児のお子さんが着替える場合、付き添われる方が一緒に入れる更衣室が必要かと思う。	小樽水泳協会
スロープ、トイレ	高体連小樽支部

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問1. 新総合体育館への要望について

	団体名
<ul style="list-style-type: none">大会等で使用する際の駐車場における駐車可能台数の確保メインアリーナ及びサブアリーナを大会で使用する際の放送設備の充実	小樽テニス協会
<ul style="list-style-type: none">昨年から、何度かこの種のアンケートに回答してきた。協会としては毎年2～3回全道大会を行っている。現在のコート数(12コート)は、必ず必要。非公式(メイン8面、サブ4面)でも構わないので、是非お願いする。覆ることのないよう、よろしく願いしたい。	小樽地区バドミントン協会
<ul style="list-style-type: none">チェンジングルーム、シャワールーム、観客席	小樽市ラグビーフットボール協会
<ul style="list-style-type: none">空調設備を充実させて下さい。照明を明るく。冬季間の暖房設備を充実	小樽剣道連盟
<ul style="list-style-type: none">プール大会開催の場合、選手・役員などの控室にサブアリーナ・格技室など使用させて欲しい。放送機材を設置してほしい。選手とは別に大会役員などのフィッティングルームが欲しい。	小樽水泳協会

1.1 利用団体へのヒアリング調査結果

問1. 新総合体育館への要望について

	団体名
<ul style="list-style-type: none">• 可能な限り、様々な種目や競技レベルの団体に広く利用できる体育館ができれば理想と考える。• これからの社会の変化を予測し、小樽市のシンボル、ランドマークとして競技でもイベントでも持続可能な施設になれば素晴らしいと思う。• プールは可能であれば、公認プールが良いと考える。	小樽市中体連
<ul style="list-style-type: none">• 高齢者、障がい者が使用しやすいバリアフリーをお願いしたい。その為に直接障がい者から声を聞いてほしい。	小樽肢体障害者福祉協会

※その他、備品についての要望や大会時の諸室の利用希望についても調査を行っています。これらの結果は、今後、開業に向けて、各団体と個別に協議します。

1.2 導入規模・機能

1.2 導入規模・機能（アリーナについて）

アリーナについて、基本構想で定めていない項目について、次のとおり定めます。

■有効天井高について

利用団体へのアンケート調査結果を踏まえ、メインアリーナ及びサブアリーナの有効天井高は以下の高さを基本とします。

- ・メインアリーナ :12.5m
- ・サブアリーナ :12m

【参考：現総合体育館の天井高】

- ・アリーナ 13m
- ・第1～2体育室 3.5m
- ・第3体育室 5.4m
- ・第4体育室 8m

1.2 導入規模・機能（プール室について）

プール室について、基本構想で定めていない項目について、次のとおり定めます。

■公認プールについて

公認プールとした場合も入水用スロープの設置が可能であり、多くの関係団体から公認プールの要望があること、競技団体から具体的な公認大会の実施案が示されていること、後志管内に稼働している公認プールが存在せず、管内の水泳団体からも大きな期待が寄せられていることから、プール室の25mプールは、公認プールを基本とします。

■水深調整方法について

基本構想では、「25m プールの水深は、アンケート結果のほか、学校の水泳授業での利用が予定されていることから、浅めの水深を軸に、あらゆる利用者が可能な限り共存できる形態を検討します。」としています。

水深調整方法については、可動床タイプについては、イニシャルコストが高額である上、定期的なメンテナンスや故障時の対応にも費用を要することから、可動床タイプ以外の水深調整方法を基本とし、将来的なランニングコストを含め、費用面で有利な方法を採用します。

1.2 導入規模・機能（プールについて）

■レーン数について

公認を取得するためには、プール公認規則（公益財団法人日本水泳連盟）により、6レーン以上とする必要があります。

プール室の面積は限られており、25mプールのほかにも幼児用プールも必要であることから、25mプールのレーン数は「6レーン」を基本とします。

■入水用スロープについて

入水用スロープを設置した場合も公認取得が可能であることから、バリアフリーに配慮し、25mプールに入水用スロープを設置することとします。

■スタート台について

競技会に対応するために、スタート台を設置することとします。

1.2 導入規模・機能（にぎわい創出機能について）

昨年度実施した市民アンケート調査では、現総合体育館について、「ほぼ利用しない」との回答が87.4%と、日常的に現総合体育館を利用する市民が少ないことが分かりました。

新総合体育館の基本理念である「誰もが集い」を実現するためには、市民が運動に親しむとともに、運動以外のイベント等も含め気軽に足を運ぶきっかけをつくることが求められます。導入機能のうち、にぎわい創出のために活用が想定される機能は、以下のとおりです。

導入機能	にぎわい創出のための施設イメージ
市民交流スペース	<ul style="list-style-type: none">・エントランスと一体的な空間とし、様々なイベントに活用できるスペースとします。・運動利用の有無に関わらず、日常的に集い、交流できる場とします。・市民による小規模なイベントや市民の作品展示等、市民主体の活動が行える場とします。・窓を大きくとる等の工夫により、屋外からも市民交流スペースでの活動が見え、足を運びやすい雰囲気を出します。 

1.2 導入規模・機能(にぎわい創出機能について)

導入機能

にぎわい創出のための施設イメージ

キッズスペース・ 託児コーナー

- ・安全で魅力ある遊具を設置し、子どもたちの体力向上を図ります。
- ・天候に関わらず、冬期間も子どもたちが遊ぶことができる場として、親子でのレジャーに利用できる施設とします。
- ・同年代の子どもたちが集うため、保護者の交流・情報交換の場としても活用します。



屋外空間 (デッキ等)

- ・エントランスに連続するようデッキを配置することで、屋内外での一体的なイベント開催の場とします。
- ・デッキの一部には屋根を設け、雨天時や真夏、積雪時も屋外での活動・イベントが可能な空間とします。



1.3 施設の管理運営方針

1.3 施設の管理運営方針

■管理運営の基本的な考え方

令和5年2月に策定した「小樽市新総合体育館基本構想」で示す①～④を管理運営の基本的な考え方とします。

①再生可能エネルギーの導入

太陽光などの再生可能エネルギーは、燃料がかからず、資源が枯渇する心配もありません。そのため、エネルギー自給率向上に貢献することができるなどの利点があります。導入に当たっては、コストとエネルギー供給量との比較検討を行った上で、地域特性にあった各種再生可能エネルギーの利用を検討します。

②予防保全型維持管理

ランニングコストの縮減を図るとともに、改築中心の対処療法型管理手法ではなく、予防保全型管理手法を基本とすることで、施設の安全性と機能性を確保しつつ長寿命化を図り、中長期的に見た財政負担の抑制と平準化を目指します。

1.3 施設の管理運営方針

③民間ノウハウの効果的活用の検討

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、ノウハウ及び技術力を活用して行うPFI手法は、事業コストの削減や、より質の高い公共サービスの提供につながることから、主要財源と事業スケジュールへの影響、地元企業の参画のしやすさや市の意向の反映しやすさなどの観点から検討を行います。

④魅力あるコンテンツによる運営の安定化

子どもから高齢者まで、広くスポーツや健康づくりに親しむことができるよう、利用者ニーズの把握に努めるとともに、時代の変化を的確に捉え、魅力ある健康プログラムやイベントを企画します。また、こうしたコンテンツの充実により、施設の活性化を図り、運営の安定化を図ります。

1.3 施設の管理運営方針

■提供するサービス等

(1) 施設の開館時間・休館日

昨年度の市民アンケートでは、市民の8割以上、団体の9割以上が、現在の開館時間・開館日で問題ないと回答しています。

そのため、新総合体育館の開館時間・休館日については、現総合体育館同様、以下のとおりとすることを基本とします。

ただし、民間活力を導入し、事業を実施する場合は、民間事業者の意見等を踏まえ、内容を変更する場合があります。

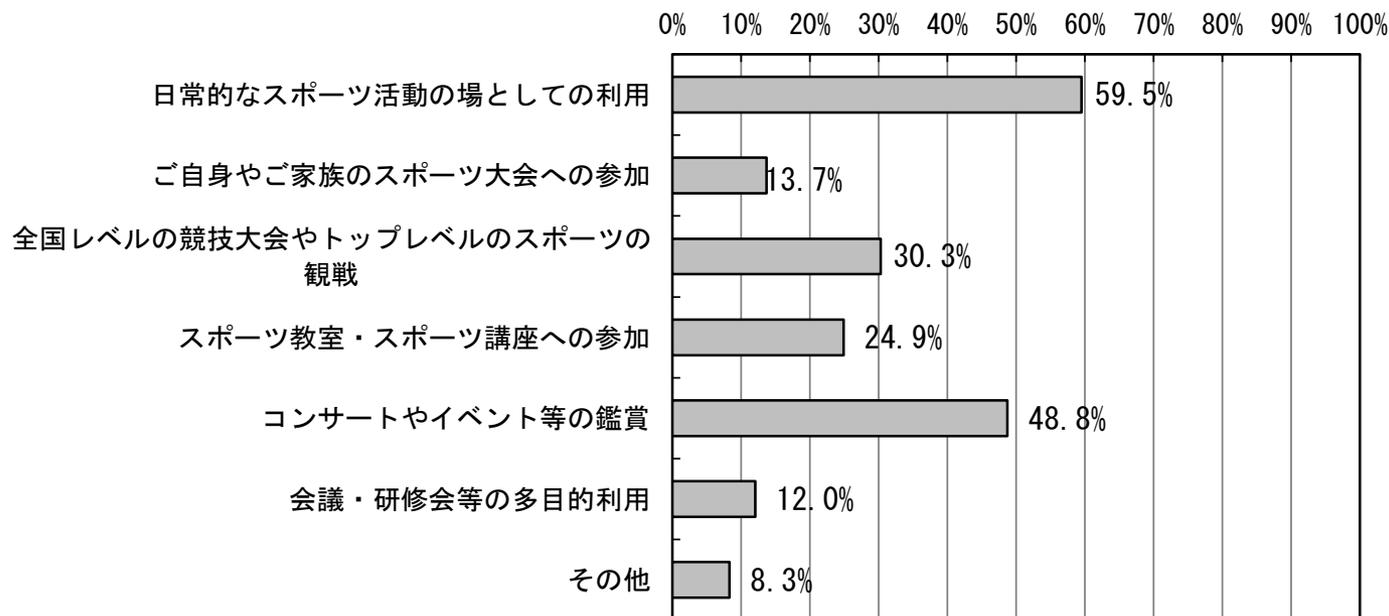
・開館時間：午前9時～午後9時

・休館日：毎月の最終金曜日（祝日の場合は前の週の金曜日）、
12月29日～翌年の1月3日

1.3 施設の管理運営方針

(2) イベントについて

昨年度の市民アンケートでは、新総合体育館に望む利用目的として、「日常的なスポーツ活動の場としての利用(59.5%)」に次いで、「コンサートやイベント等の鑑賞(48.8%)」が多く、スポーツ利用以外のイベント利用への期待も大きい結果となっています。しかしながらプロスポーツの興行については、現在想定している体育館の規模・機能から制約が生じるため、想定される誘致事業については、各プロスポーツの規則や他市での実績等を調査の上、次回以降の検討委員会でお示しします。



N=482

◀市民アンケート調査結果